

糖尿病看護認定看護師の活動

仲程 知恵 水口 苑絵 菊永 恭子 古山 景子

日本医科大学付属病院看護部

Roles and Activities of Certified Nurse in Diabetes Nursing

Chie Nakahodo, Sonoe Mizuguchi, Kyoko Kikunaga and Keiko Furuyama

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2016; 12: 95-96)

2014年度の厚生労働省の「患者調査」によると、糖尿病の患者数は316万6,000人となり、前回(2011年)調査の270万人に比べ46万6,000人増え、過去最高となった。糖尿病は慢性疾患であり、患者は生涯に渡り療養生活を送ることが求められ、様々な葛藤や問題を目の当たりにすることが多く、疾病管理や療養生活支援を行うことが糖尿病看護認定看護師の役割である。糖尿病内分泌代謝内科には医師、看護師、栄養士、薬剤師などで構成された患者教育のためのチームがあり、循環器内科には大血管障害、足壊疽などの糖尿病合併症管理を行う糖尿病チームがある。それぞれのカンファレンスにおいて、糖尿病看護認定看護師が、患者の意思決定や目標を代弁することにより、それらを医療チームで共有し、治療や支援に反映させることができる。本院では2003年から外来糖尿病看護相談が開設され、現在は糖尿病看護認定看護師4名が、個々の患者に応じた支援の充実に努めている。

糖尿病看護認定看護師の役割：3つの柱

①血糖パターンマネジメント技術

インスリン自己注射をしている患者は血糖自己測定(Self Monitoring of Blood Glucose: 以下 SMBG)が保険適応とされており、診察の際、SMBGノートを

持参されている。SMBGは「医療者のため」のものではなく、「患者自身に食事、運動、生活習慣が血糖値にどの程度影響しているかを理解してもらう」ものであり、その結果は患者の生活背景を反映するものである。そのため、一つ一つのデータを大切に扱い、患者と一緒に振り返りを行う。血糖コントロールの十分な改善がみられない時は、SMBGのタイミングの変更を提案したり、食事内容の見直しなどを行っている。

もちろん、血糖パターンマネジメント以前に、インスリン導入時のケアも重要である。インスリン自己注射を指示された患者は、治療へのあきらめや断固とした拒絶をすることも少なくない。そのような中で、患者の思いを引出し、今後どのように療養していきたいのかを確認し、支持的な姿勢で支援している。

②予防的フットケア技術

日本では生活の欧米化に伴い、急速に足病変の発症率が上がっている。足壊疽になると患者のQOLは著しく阻害される。しかし足病変の誘因の約7割が靴ずれ、胼胝によるものであり、医療者によるケアや教育により足病変は予防可能と考えられている。その中で糖尿病看護の特性を活かし、患者の身体面だけでなく、生活背景や疾病への思いなど、患者を全人的に捉

Key word: Certified Nurse in Diabetes Nursing

Correspondence to Chie Nakahodo, Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan

E-mail: c-ichikawa@nms.ac.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

えながら行う予防的フットケアは、重要であるといえる。

私達は、外来糖尿病看護相談において、担当患者の足病変のリスク評価と、予防的フットケアを行うとともに、医師からの足病変ハイリスク患者の療養相談にも対応している。予防的フットケアとは肥厚爪や角質の除去、胼胝、鶏眼の処置、洗浄の方法や乾燥予防の説明、白癬や皮膚トラブル発見時の外来受診の勧奨などである。また、単に足をケアするだけでなく、神経障害の簡易診断基準を元に、モノフィラメント検査、振動覚検査、アキレス腱反射の確認を行い、患者に足病変のハイリスク要因を認識してもらい、足病変予防に必要なセルフケア技術の獲得に向けサポートしている。

③糖尿病ケアシステム立案技術

病院・施設や地域において、一次、二次、三次予防に向けた効果的な糖尿病教室の開催、ケアシステムの確立が求められている。当院では受診患者の疾病コントロール、合併症予防を行うだけでなく、一時予防においても、毎年11月の世界糖尿病デーに合わせて糖

尿病週間を設け、近隣の一般住民を対象に無料で血糖・腹囲・血圧測定を行い、メタボリックシンドローム評価を行っている。

当院の外来糖尿病看護相談は予約制であり、診察前に患者と関わるよう調整をしている。その中で、患者個々の病態、生活背景に応じ、療養上の問題点を探りながら、実行可能な療養行動を患者が自己決定できるように支援している。また、より効果的な薬物療法の調整を相談、提案するなどし、それらの内容が診療に活かされるようカルテへ記載したり、必要時は医師や栄養士などの他職種とも迅速な連携を図っている。さらに病棟においても患者への直接的な支援や、スタッフの患者支援に対する教育を担っている。糖尿病関連病棟では日本糖尿病療養指導士も在籍し、新たにこの資格取得を目指すスタッフのサポートにも努めている。このような中で、患者をサポートできるチームを拡大させ、今後も糖尿病患者への支援の向上に努めていきたい。

(受付：2016年3月14日)

(受理：2016年5月24日)